

パフォーマンスとシンポジウム
そろそろ未来をつかみますか!?…
(AI HALL 自主企画Vol.56)

第1部

劇団態変&大野一雄コラボレーション
「山が動く」

PART1.

5月20日(金) 7:30PM

PART2.

5月21日(土) 5:30PM

●両日とも受付は開演1時間前
(整理券発行・開場は30分前)

前売り3,000円 当日3,500円

障害者+介護者割引(前売のみ)5,000円

注:割引券は「チケットぴあ」では取扱い
していません。

チケット取扱い

前売開始4月10日(日)

電話予約・前売券のお求めは

チケットぴあ ☎06(363)9999

AI・HALL ☎0727(82)2000

イメージ ☎06(320)0344



大野 一雄

1906年生。1949年第1回舞踏公演。
土方巽と出会い、「舞踏」を芸術の領野へ。

1980年ナンシー国際演劇祭以来、
各国の文化庁、大学、芸術団体等に
招かれ海外公演多数。

代表作「ラ・アルヘンチーナ頌」「わたしのお母さん」

「死海」「睡蓮」「蟲びらき」「花鳥風月」。

映画「O氏の肖像」出演。

著作に「舞踏譜」(思潮社)がある。

企画・製作/イメージ ☎06(320)0344

主催/伊丹市

後援/朝日新聞社

毎日新聞社

産経新聞社

協賛/懶資生堂

サントリー株式会社

大阪ガス(株)エネルギー文化研究所

日本電通建設株式会社

協力/ダイハツ労働組合

全電通労働組合京都支部

劇団態変&大野一雄
コラボレーション
「山が動く」
実 験 空 間

第2部

シンポジウム

「未来を拓くパルネラブルな出会い」

◆金満里が語る態変の10年

◆表現、福祉文化、経済、情報をめぐって…

一番ヶ瀬康子 金子都容 金満里

5月22日(日) 2:00~5:00PM

受付開始1:00

(1:00から会場で劇団態変の
公演ビデオを上映しています。)

参加費2,000円

障害者+介護者割引3,000円

要・電話予約

予約受付 イメージ ☎06-(320)0344

アイホール ☎0727(82)2000

●手話通訳付き

場所

AI HALL

JR伊丹駅前☎0727(82)2000

“表現（芸術）”、“福祉”という言葉が並んでいると違和感を感じたり、何か低レベルな表現のイメージがつかまったりしがちです。

…“福祉の対象者”=“受動的”=“文化から遠い”という先入観にも根強いものがあるようです。

世界でも類を見ない身障者の舞台芸術集団、劇団態変が創立して11年、《障害そのものを表現力に転化する。》

《障害者にしか創りだせない美を追究する》という態変の挑戦を振り返りつつ、

ここにひとつの問題提起を試みたいと思います。
是非、ご来聴を！

パフォーマンスとシンポジウム
そろそろ未来をつかみますか!?

第2部

5月22日(日) 2:00~5:00PM

受付開始1:00

(1:00から会場で劇団態変の公演ビデオを上映しています。)

AI HALL

J R伊丹駅正面

未来を拓くパルネラブルな出会い

◆ 金満里が語る態変の10年 ◆ 表現、福祉文化、経済、情報をめぐって…

出席

一番ヶ瀬康子

(日本女子大学教授・福祉文化学会会長)

金子 郁容

(一橋大学教授)

金満里

(劇団態変主宰・演出家)

参加費2,000円

障害者+介護者割引3,000円

要・電話予約

予約受付

イメージ

☎06(320)0344

アイホール

☎0727(82)2000

●手話通訳付き

金子 郁容

1948年生。慶応大学卒、スタンフォード大学院博士号取得。
 Wisconsin 大準教授等を経て、現在一橋大学教授。
 ボランティア論と非営利組織論の旗手。
 著書に「ネットワークへの招待」(中央公論社)、
 「ネットワーク組織論」(共著・岩波)、
 「ボランティア・もう一つの情報社会」(岩波新書)など。

パルネラブル vulnerable (英)

●原意:「他人からの攻撃を受けやすい」「傷つきやすい」
自発性に基づいて行動する(言いだしっぺになる)、
情報の発信元になる、自らを晒す、
などの行為は、他人からの攻撃・批判を受けやすい
「ひ弱い」立場に自分自身を立たせることを伴いがちである。
その状態を敢えて選ぶことを
「自らをパルネラブルにする」と言う。

《パルネラブルであることは、弱さ、
攻撃されやすさ、傷つきやすさであるとともに、
相手から力をもらうための「窓」を開けるための秘密の鍵…》

金子郁容「ボランティア〜もうひとつの情報社会」

一番ヶ瀬 康子

1927年生。法政大学大学院修了。
日本女子大学社会人間学部・学部長・教授。
福祉文化学会会長。「福祉」の概念を日本に広める。
著書に「すこやかに老いる」現代の老後考(ドメス出版)、
「義老院百年史」現代の障害者福祉問題など多数。

福祉文化

“福祉”自体の焦点が、単に生存を認めるだけから、
人間らしい生活の保障、さらに一人ひとりの
自己実現の援助へと高まってきている…
真の福祉、真の文化というものを目指したときに、
“福祉文化”という造語は、
“福祉”“文化”それぞれの在り方を問い、
人間としての本質にせまる表現となる。

一番ヶ瀬康子「福祉文化学会 紀要」巻頭言より